

横浜冷凍株式会社 証券コード2874

第78期(2025年9月期)

決算説明会

人とおいしさのあいだに



- 1 . 2025年9月期 決算実績
- 2 . セグメント別 決算実績
- 3 . 2026年9月期 通期業績予想
- 4 . 中期経営計画の進捗状況
- 5 . 持続可能な社会へ –サステナビリティへの取り組み–
- 6 . APPENDIX

2025年9月期 決算実績

Financial Summary for FY2025

1. 2025年9月期 決算実績
2. セグメント別 決算実績
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 持続可能な社会へ
ーサステナビリティへの取り組みー
6. APPENDIX

冷蔵倉庫事業は、堅調な需要拡大により増収増益
食品販売事業は、増収ながらもコスト増により減益

売上高

1,255.6億円

前期比
+2.7%

営業利益

42.3億円

前期比
△ 8.8%

- 冷蔵倉庫事業 ■ 高い在庫水準が継続。入庫量、出庫量、在庫量すべてにおいて前期を上回り、増収増益
■ 料金改定や業務の効率化により生産性を向上させ、人件費・動力費などの物価上昇によるコスト増を吸収
- 食品販売事業 ■ 売上高、売上総利益とも、前期実績を上回るも、運賃、保管料等のコスト増を吸収しきれず増収減益

・売上高1,255.6億円(前期比+2.7%)、営業利益42.3億円(前期比△8.8%)の増収減益

(単位:百万円)

24/09期	25/09期	前期比		25/09期 予想	
		増減額	増減率	通期業績予想	達成率
売上高	122,282	125,563	+3,281 +2.7%	127,000	98.9%
売上総利益	13,664	14,136	+472 +3.5%	—	—
売上総利益率	11.2%	11.3%	+0.1pt -	—	—
営業利益	4,647	4,238	△409 △8.8%	4,250	99.7%
営業利益率	3.8%	3.4%	△0.4pt -	—	—
経常利益	4,808	3,658	△1,150 △23.9%	4,150	88.1%
親会社株主に帰属する 当期純利益	3,933	1,978	△1,955 △49.7%	2,800	70.6%
設備投資額	21,554	16,900	△4,653 △21.6%	—	—
減価償却費	7,365	8,263	+898 +12.2%	—	—
E B I T D A	12,012	12,501	+489 +4.1%	—	—
自己資本比率	38.5%	38.6%	+0.1pt -	—	—

連結貸借対照表

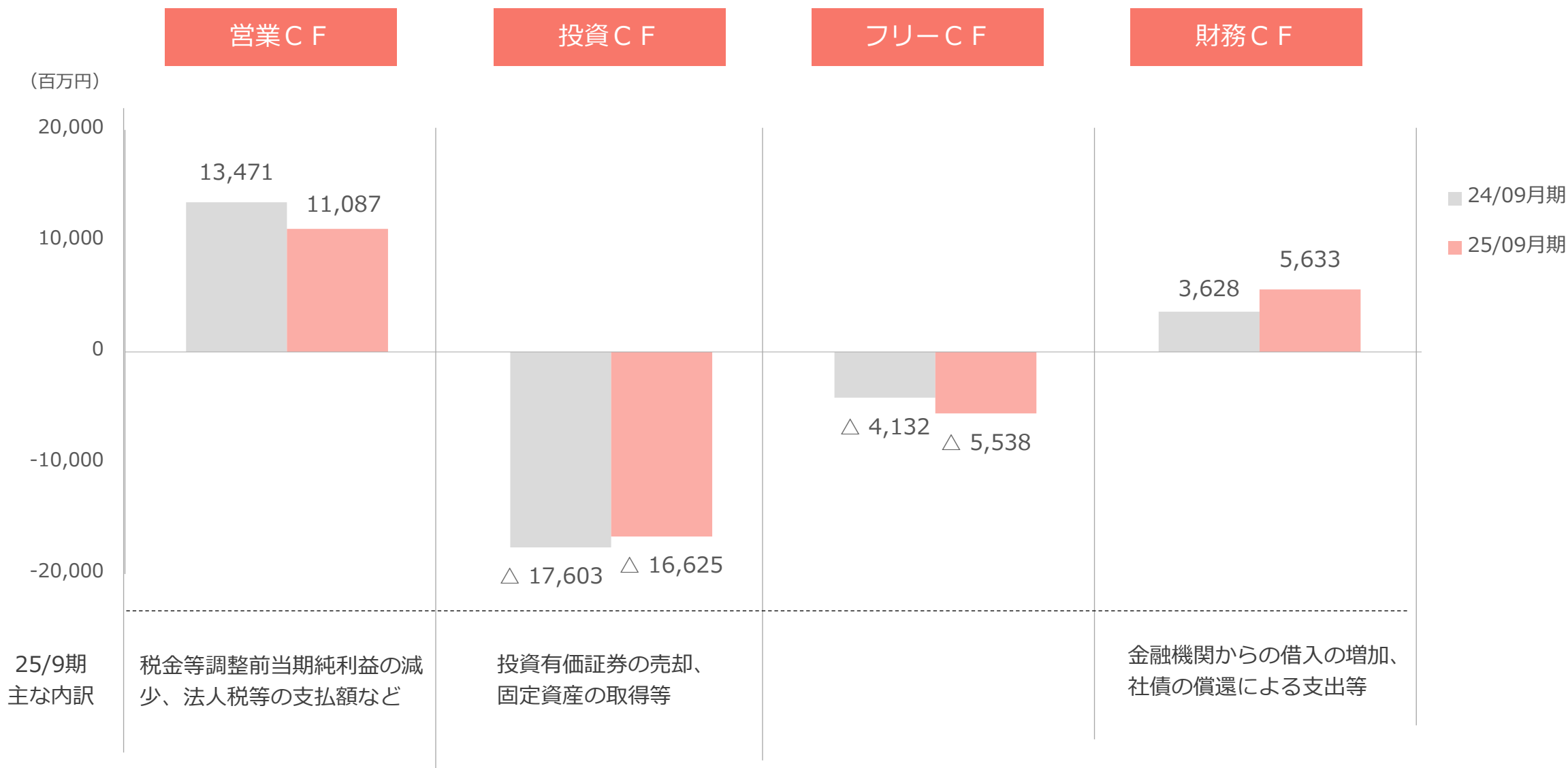


- 有形固定資産の増加は「岡山CONNECT物流センター」「十勝フードバレー物流センター」ベトナムの「ベンルック物流センター」竣工が主な要因
- 長期借入金の増加は、当期竣工した3つの物流センターの設備資金及び社債償還資金が主な要因

(単位:百万円)

資 産	24/09期	25/09期	増減	負債・純資産	24/09期	25/09期	増減
流動資産	36,270	34,253	△2,017	流動負債	43,643	39,814	△3,829
受取手形及び売掛金	13,370	13,318	△52	支払手形及び買掛金	4,573	4,882	+309
商品	16,295	14,461	△1,834	短期借入金	12,273	13,591	+1,318
短期貸付金	825	1,031	+206	固定負債	79,511	86,801	+7,290
固定資産	166,756	174,780	+8,024	社債	20,000	10,000	△10,000
有形固定資産	115,399	123,559	+8,160	長期借入金	52,854	68,897	+16,043
投資有価証券	43,239	43,256	+17	純資産	79,871	82,417	+2,546
総 資 産	203,026	209,034	+6,008	負債及び純資産	203,026	209,034	+6,008

連結キャッシュフロー計算書



セグメント別 決算実績

Segment Result

1. 2025年9月期 決算実績
2. セグメント別 決算実績
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 持続可能な社会へ
ーサステナビリティへの取り組みー
6. APPENDIX

冷蔵倉庫事業

・ 堅調な需要拡大により入庫量、出庫量、在庫量ともに順調に前期を上回り増収・増益

食品販売事業

・ 食品販売事業全体では、運賃、保管料等のコスト増を吸収しきれず増収減益

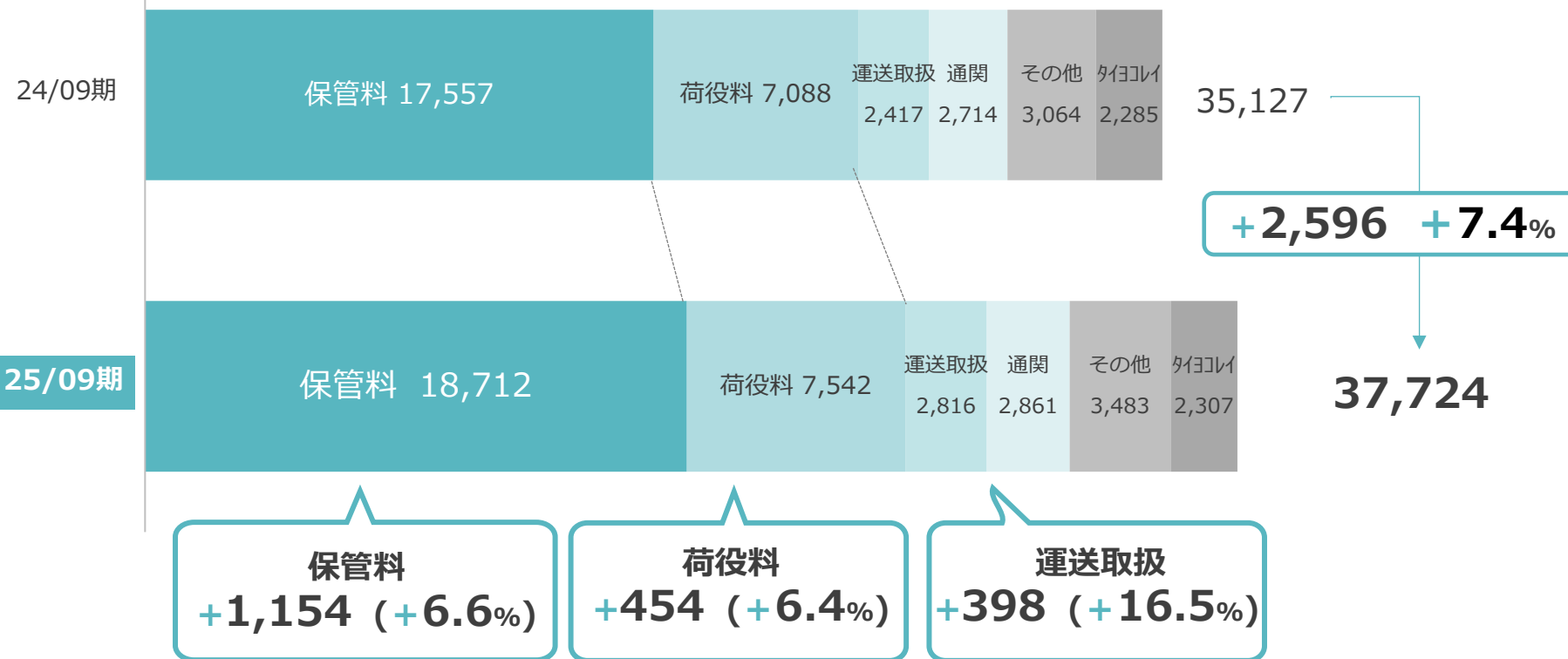
(単位:百万円)

	24/09期	25/09期	前期比		25/09期予想	
			増減額	増減率	通期予想	達成率
売上高	122,282	125,563	+3,281	+2.7%	127,000	98.9%
冷蔵倉庫事業	35,127	37,724	+2,597	+7.4%	35,900	105.1%
食品販売事業	87,095	87,807	+712	+0.8%	91,000	96.5%
その他	59	31	△28	△47.5	-	-
セグメント利益	8,697	8,693	△4	+0.5%	-	-
冷蔵倉庫事業(※)	7,198	7,436	+238	+3.3%	6,930	107.3%
食品販売事業(※)	1,473	1,217	△256	△17.4%	1,700	71.6%
その他(※)	25	39	+14	+56.0%	-	-

※ 各セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です。

- 高い在庫水準が続き、入庫量・出庫量・在庫量のいずれも前期比で増加
- 料金改定や業務の効率化により、コスト増を吸収して増収増益で着地
- タイの連結子会社も入庫量・出庫量ともに増加し、第3四半期以降は主力の畜産品や果汁などの在庫が増加したことにより増収増益

(単位：百万円)

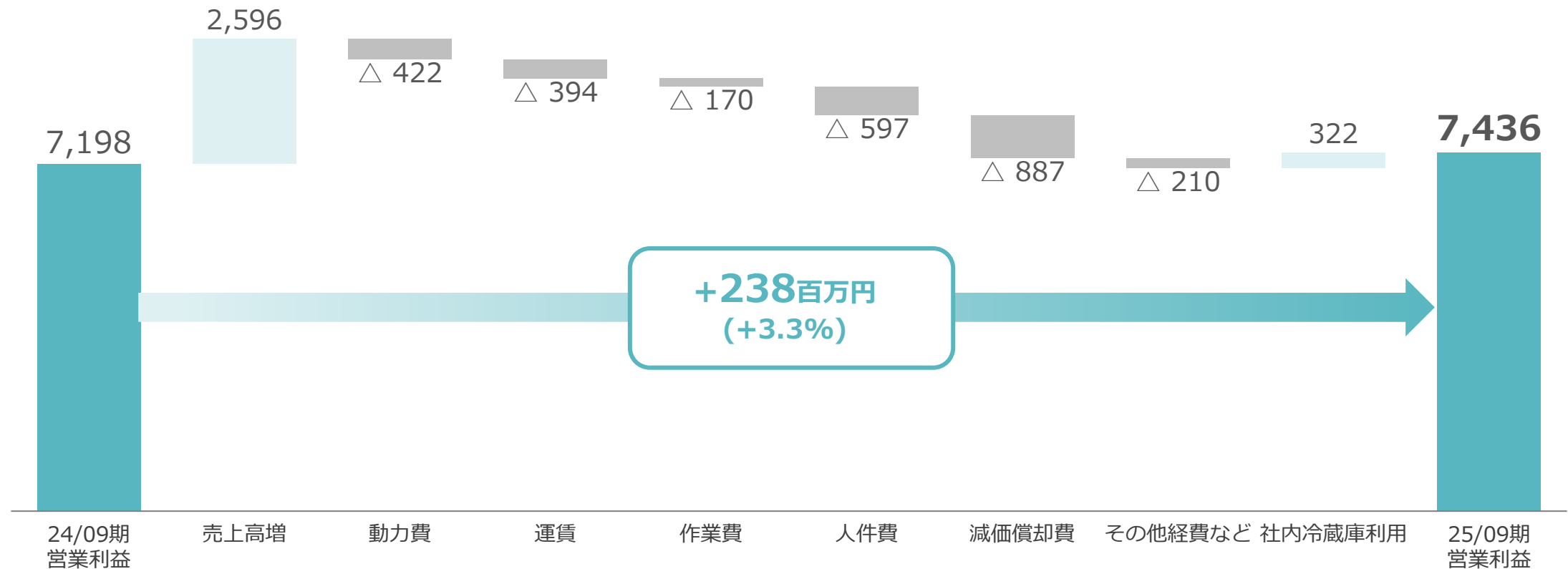


貨物の取扱状況 (前期比)

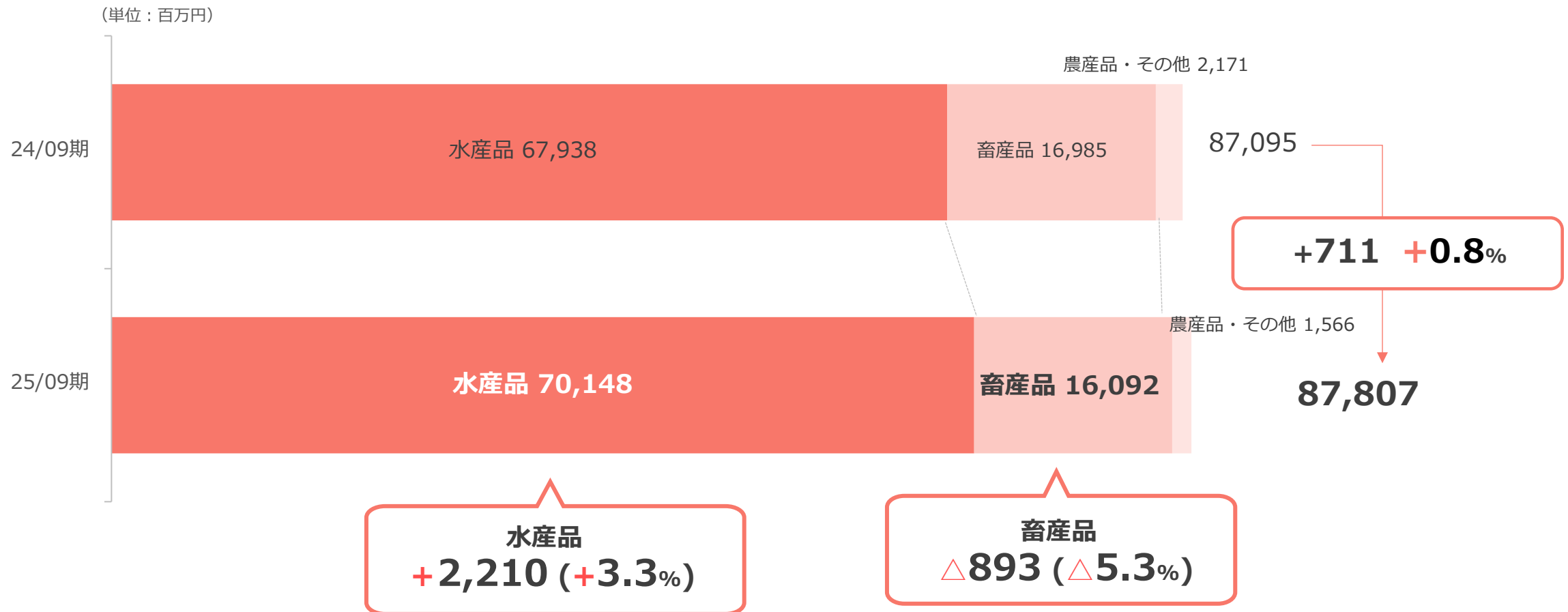
入庫取扱量	+2.8%
出庫取扱量	+2.9%
平均保管在庫	+3.4%
平均保管単価	+4.3%

- 堅調な需要増による増収により、今期竣工した3つの物流センターの減価償却費増、人件費・動力費などの物価上昇によるコスト増を吸収し238百万の増益

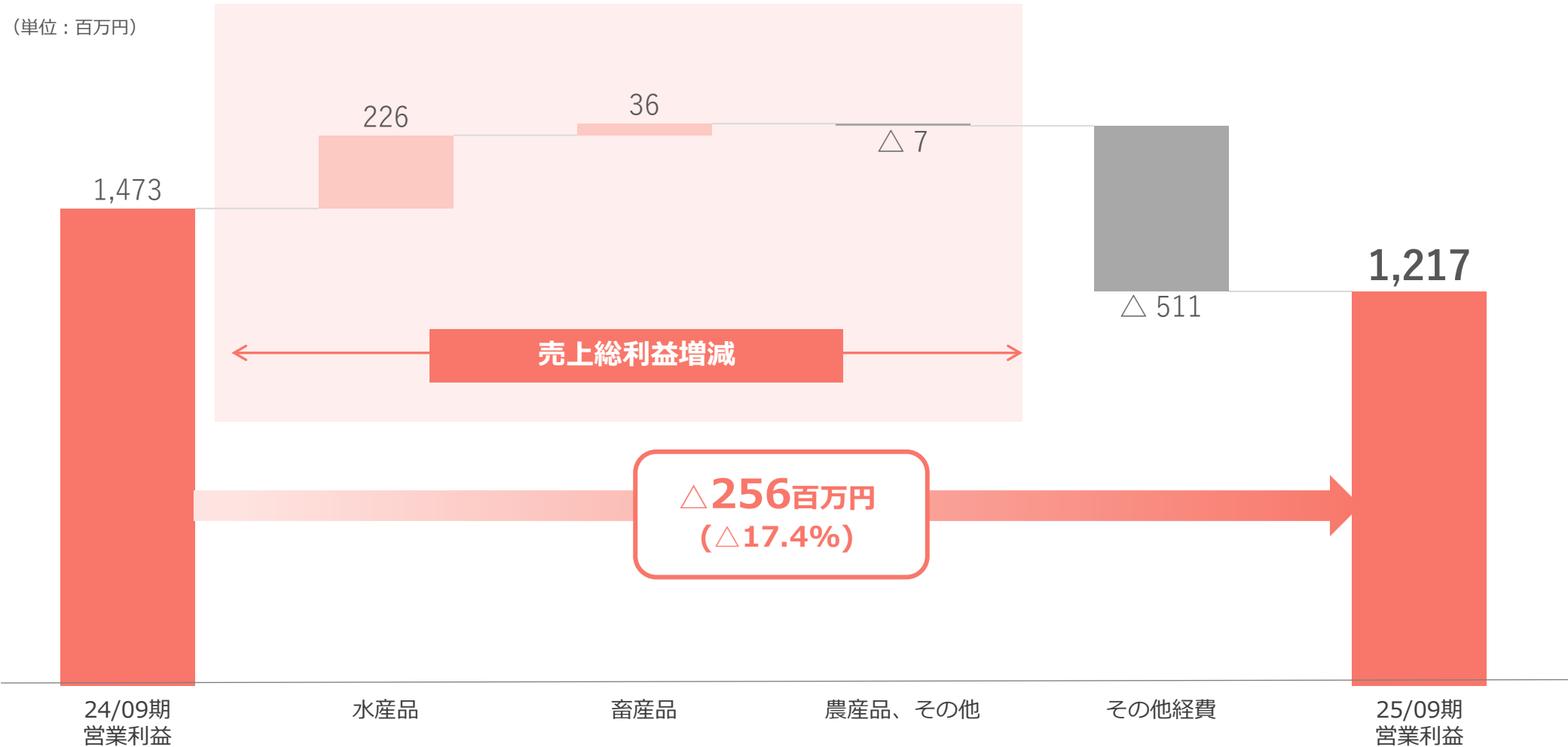
(単位：百万円)



- 水産品： イワシ・サバ等の豊漁により取扱量増加などにより増収
- 畜産品： 一部不採算事業縮小の影響もあり減収



- 水産品および畜産品は売上総利益は増益ながらも、経費増加分を吸収できず減益



2026年9月期 通期業績予想

Earnings Forecast for FY2026

1. 2025年9月期 決算実績
2. セグメント別 決算実績
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 持続可能な社会へ
ーサステナビリティへの取り組みー
6. APPENDIX

食品販売事業を利益率重視の事業構造に転換させ、減収ながらも前期比2桁の増益を見込む

(単位:百万円)

	25/09期 通期実績	26/09期 通期予想	前期比	
			増減額	増減率
売上高	125,563	118,000	△7,563	△6.0%
冷蔵倉庫事業	37,724	38,000	+276	+0.7%
食品販売事業	87,807	80,000	△7,807	△8.9%
営業利益	4,238	4,800	+562	+13.3%
冷蔵倉庫事業	7,436	7,300	△136	△1.8%
食品販売事業	1,217	1,800	+583	+47.9%
配賦不能費用他	△4,455	△4,300	-	-
経常利益	3,658	4,600	+942	+25.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,978	3,000	1,022	+51.6%
減価償却費	8,263	8,376	+113	+1.4%

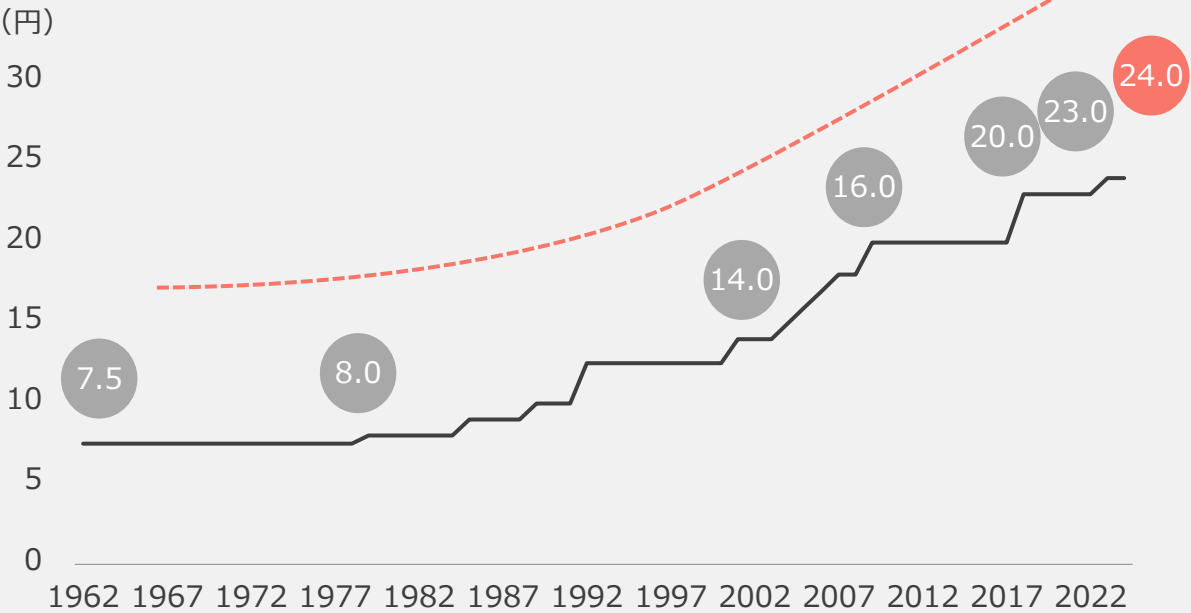
※ 各セグメントの営業利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です。

着実な成長と累進配当

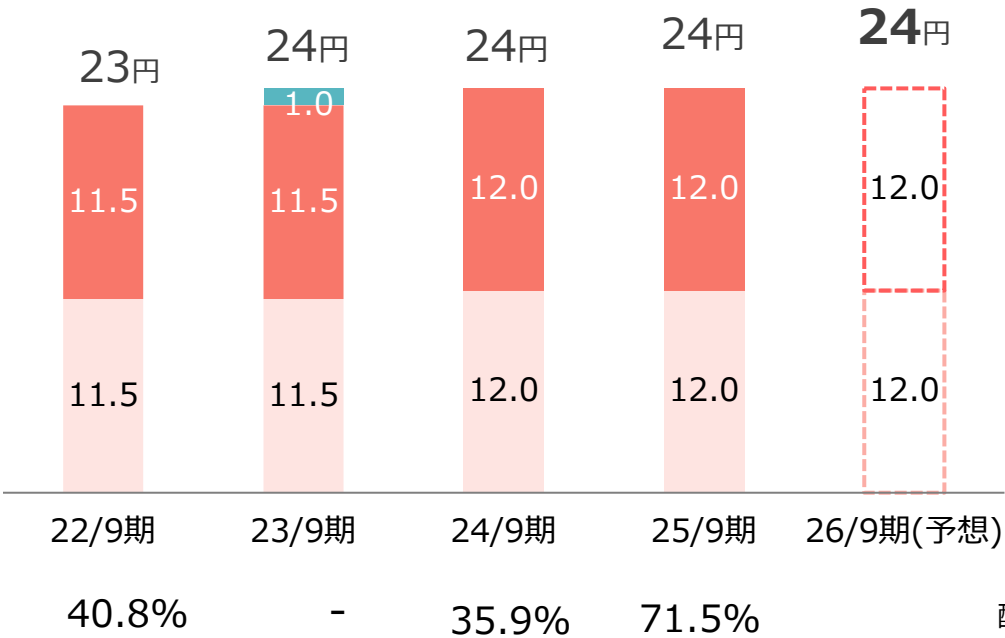
1962年の東証二部上場以来、半世紀以上増配を継続

26/9期予想 年間 **24円**

－年間配当推移－



■ 中間配当 ■ 期末配当 ■ 記念配当



配当性向

中期経営計画の進捗状況

Progress of Mid-term Business Plan

1. 2025年9月期第2四半期 決算実績
2. セグメント別 決算実績
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 持続可能な社会へ
ーサステナビリティへの取り組みー
6. APPENDIX

コスト増の影響および食品販売事業の構造改革の影響を加味し、中期経営計画の数値目標を変更

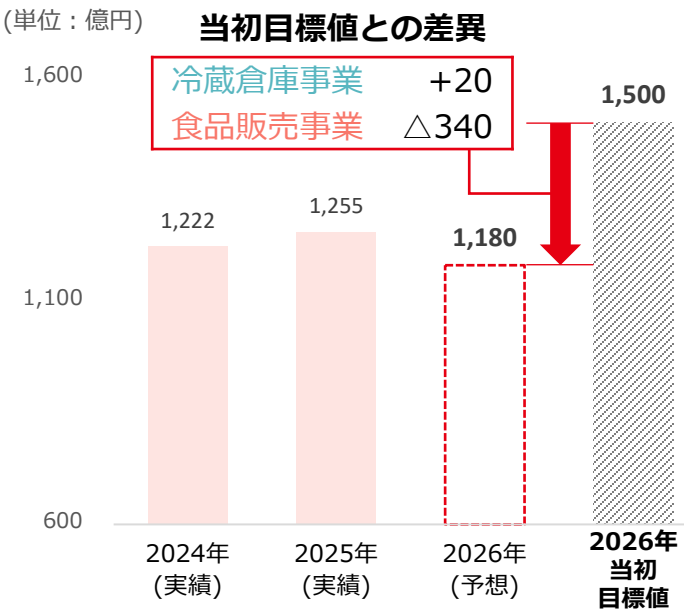
冷蔵倉庫事業

- 売上は当初目標以上を達成する見込みだが、建設費高騰に伴う償却費の増加やエネルギーコストの上昇が想定を上回る水準で推移したことにより、セグメント営業利益が当初計画を下回る見込み

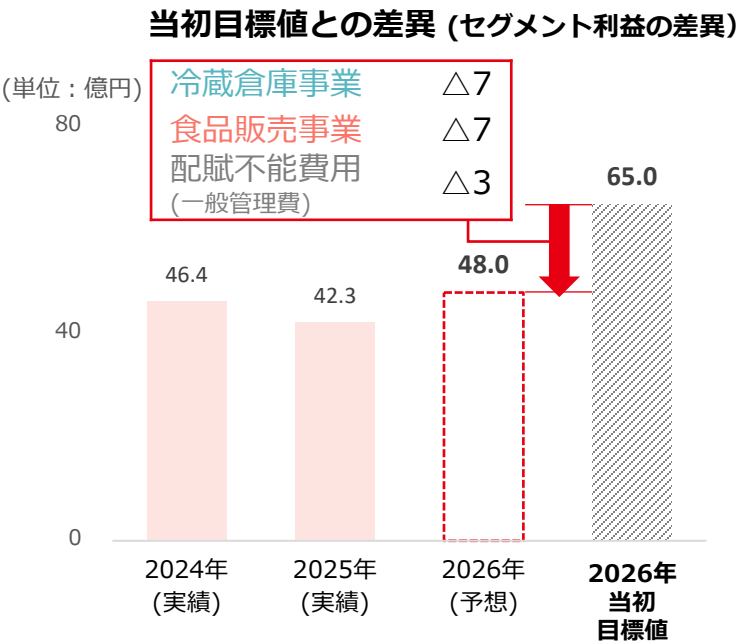
食品販売事業

- 低採算取引の見直しを行うことにより、売上高およびセグメント営業利益が当初計画を下回る見込
- 利益率重視の事業構造への転換を推進中

売上高



営業利益



その他、目標値

当初目標値との差異

2026年当初目標値	
EBITDA	130億円
ROE	5% 以上
自己資本比率	40%台を維持

変更後目標値	
EBITDA	130億円 (変更なし)
ROE	4% 以上
自己資本比率	40%台を維持 (変更なし)

※：セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

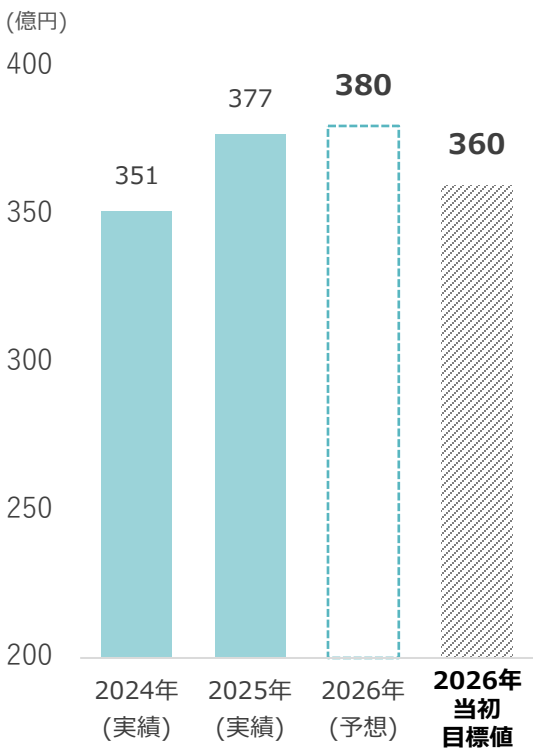
- 環境配慮型センターの竣工が順調に進み**売上高・利益ともに順調に拡大**

中期経営計画当初目標値との差異	
売上高	堅調な需要に支えられ、当初目標を上回る予想
セグメント利益	建設費高騰に伴う償却費の増加やエネルギーコストの上昇を背景に当初目標としていた利益率を確保できず、目標値を引き下げ

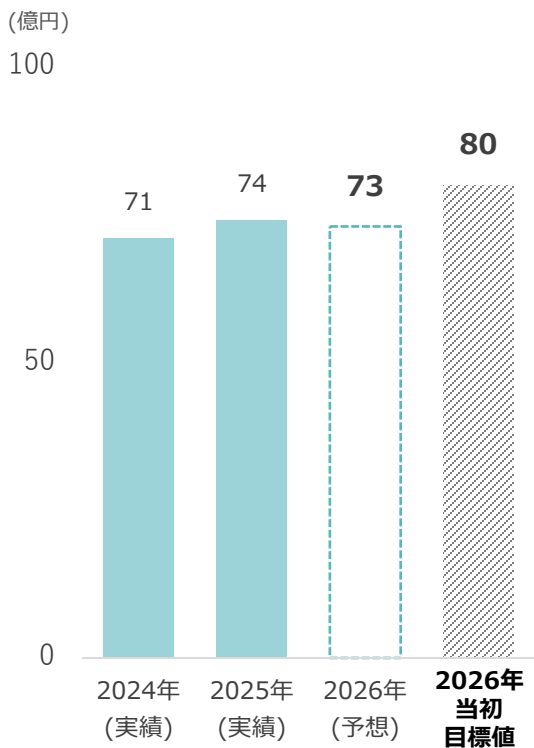
中期経営計画重点施策

- 1 環境配慮型センターの加速化 Pick UP P19
- 2 スマートコールドサービスの実現
- 3 ASEANグローバル展開 Pick UP P20

売上高



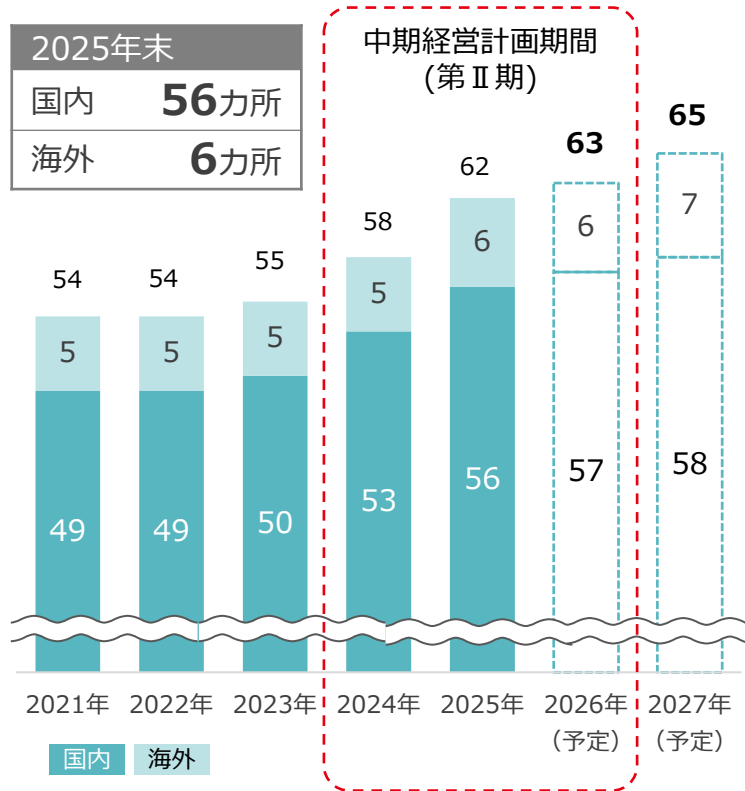
セグメント利益



※：セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

- 2025年に岡山CONNECT物流センター、十勝フードバレー物流センター、ベトナムのベンルック物流センターの3拠点が竣工
- 2026年以降も引き続き、環境配慮型センターを拡大予定

冷蔵倉庫拠点数推移



2025年竣工

🇯🇵 2025年4月
中国・四国地方の要衝
岡山CONNECT物流センター



🇯🇵 2025年4月
北海道地区 第8の物流拠点
十勝フードバレー物流センター



🇻🇳 2025年3月
当社初ベトナム進出
ベンルック物流センター



2026年竣工(予定)

🇯🇵 2026年夏
日本海側 当社初の物流センター
長岡物流センター(仮称)

2027年竣工予定

🇯🇵 海・陸をつなぐ重要な物流拠点
大井川第二物流センター(仮称)

🇹🇮 「タイ物流変革」として高性能、
省力化、省人化に特化
スワンナプーム物流センター(仮称)

- ✓ 省人化・省力化に対応し、太陽光発電設備やリチウムイオン蓄電池を導入した最新鋭の設備を導入
- ✓ BCP対策強化

- 2025年に、当社初のベトナム進出となるベンルック物流センターを竣工
- 2027年春には、タイ6カ所目となる物流センターが竣工予定

海外冷蔵倉庫拠点 (2025年末現在)



ベトナム：ベンルック物流センター

2025年3月竣工

当社初 ベトナム進出

- 収容能力 約45,000トン（約18,000パレット）
- ヨコレイグループ初の自動倉庫を採用
- 最新鋭の設備



タイ：スワンナプーム物流センター（仮称）

2027年春竣工予定

- タイ国内のトラック輸送拠点
- バンコク市内の人口増による物流網の再構築



✓ 経済発展が著しく、世界の水産加工基地としても注目されているASEAN地域での展開を推進

- 利益率重視の事業構造への転換をすすめる中、中期経営計画の当初目標値に対しては売上高・セグメント利益ともに引き下げ
- セグメント利益率は、当初目標より改善する予定

中期経営計画当初目標値との差異

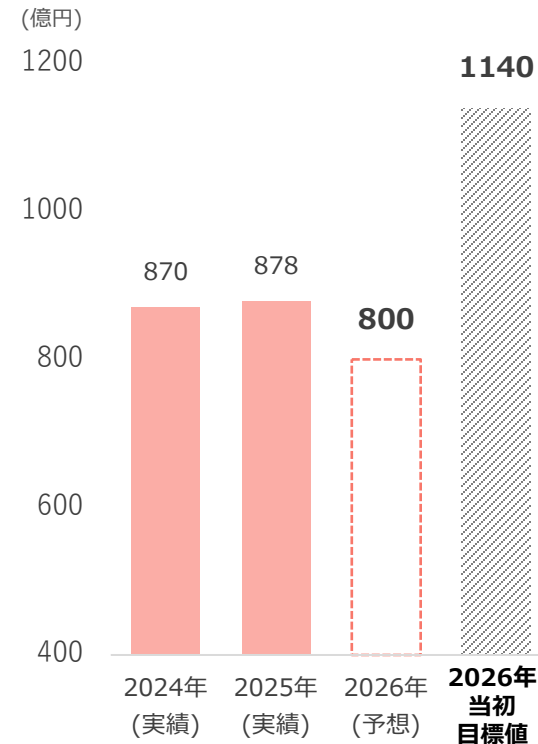
売上高	利益率重視の事業構造への転換することにより、売上高減
セグメント利益	利益率は改善しつつも、運賃、保管料等のコスト増によりセグメント営業利益が当初計画を下回る見込み

中期経営計画重点施策

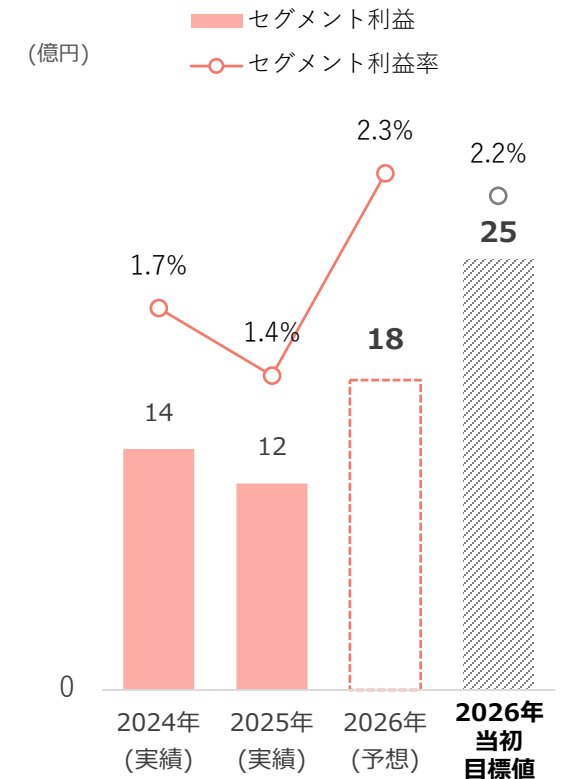
- 1 収益性向上のための構造改革
- 2 事業品・全社取組商材の販路拡大
- 3 独自商品と販売網の開発
- 4 海外における販路拡大

Pick UP P22

売上高



セグメント利益

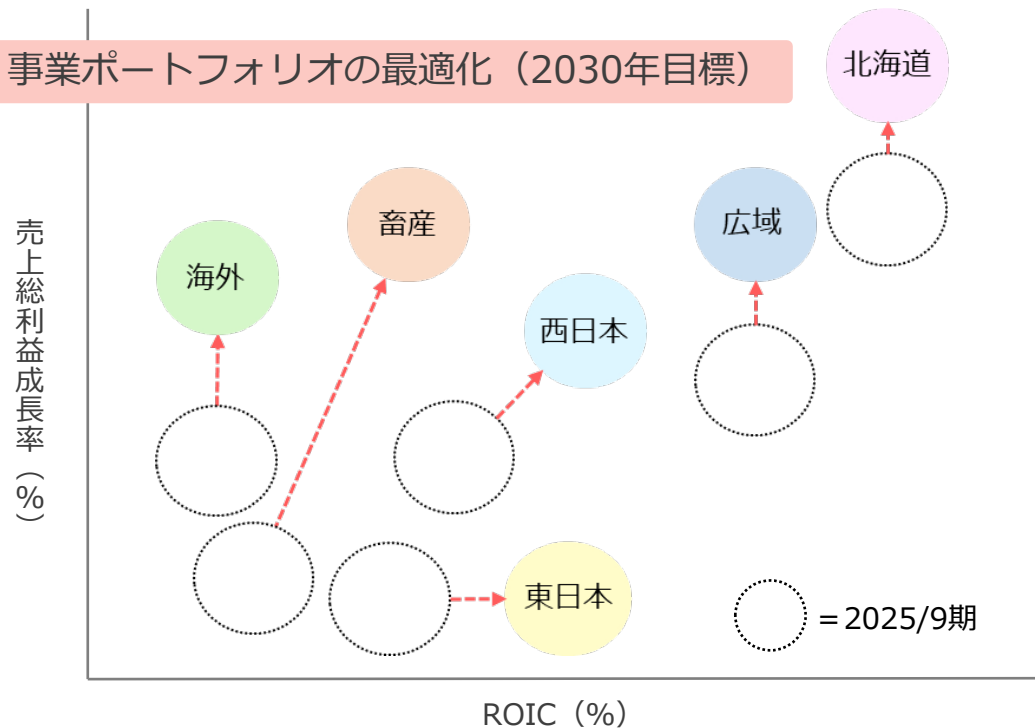


- 利益率重視の事業構造への転換にむけて、低採算取引の見直しと在庫管理を徹底
- 各種施策を実行し、利益率改善に取り組む

ROIC改善にむけた取り組み

- 棚卸資産の改革
- 事業別ROIC導入による組織的販売の厳格化
- 事業投資に係るプロセスの厳格化

事業ポートフォリオの最適化（2030年目標）



組織的な商圈開拓

- 販売事業本部の傘下に管理チームおよび営業チームを設置
国内：全国の営業データを可視化し、今後の戦略を立案
海外：タイ・ベトナムを中心にASEAN商圈の開拓

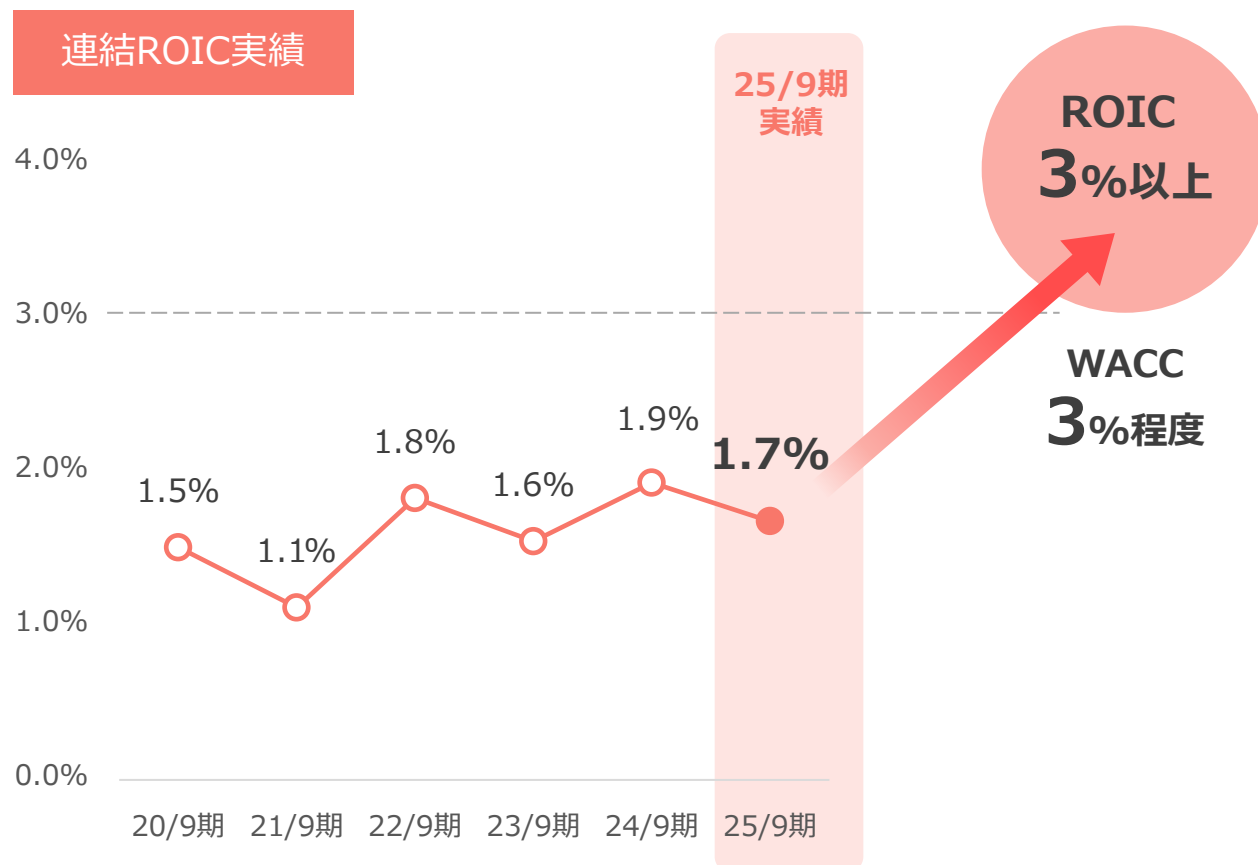
DX化による効率化

- 商談共有システムのテスト導入を実施。
- 全国の営業活動を一元管理することで新たな販売機会を創出

人材育成

- 全国の営業マンを対象にサミットを開催し、若手の交流を促進
- 各商材に精通したスペシャリストの育成に注力

- 現在：株主資本コスト 6%～7%、WACC(加重平均資本コスト) 約3%
- ヨコレイ事業ビジョン2030の方針に沿い事業価値の向上を推進し、ROIC3%以上の早期達成を目指す



経営改善に向けた全部門実行方針

投資の適正化による財務健全性の維持

食品販売事業の改革

- 棚卸資産の改革
- 事業別ROIC導入による組織的販売の厳格化
- 事業投資に係るプロセスの厳格化

冷蔵倉庫事業

伝統と革新を融合したスマートコールドサービスをお約束します

2030年
定量目標

- ① セグメント売上高 **400億円**
セグメント利益*100億円
- ② 多機能&オートメーション化低温物流センター
⇒2030年までに10センター新設<庫腹約25万トン増>

食品販売事業

お客様とともに食の独自価値を実現し、生産者に寄り添い守り、世界の食卓を豊かにします

2030年
定量目標

- ① セグメント売上高 **1,300億円**
- ② セグメント利益率* **3.0%以上**

環境活動

自然冷媒導入率 **85%以上**

太陽光発電能力 **20メガワット**

2030年
全社定量目標

連結売上高
1,700億円

連結営業利益
100億円

EBITDA
170億円以上

*セグメント利益は、配賦不能営業費用（管理部門にかかる費用）の控除前です

持続可能な社会へ

ーサステナビリティへの取り組みー

For the sustainable society

経営理念

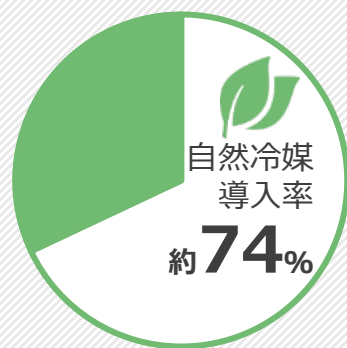
「会社は社会の公器であり、利益は奉仕の尺度である」

1. 2025年9月期 決算実績
2. セグメント別 決算実績
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 持続可能な社会へ
ーサステナビリティへの取り組みー
6. APPENDIX

環境に配慮した 自然冷媒による冷却システム

業界でもいち早く冷媒をフロンから、
環境にやさしい自然冷媒（NH3、CO2）
へ切り替え

業界トップクラス



太陽光発電システム による発電能力及びCO2削減量

冷蔵倉庫で太陽光発電システムが稼働



物流センターの屋上に設置された太陽光発電
モジュール

省エネな冷蔵倉庫

業界平均より電力使用が
13% 少ない

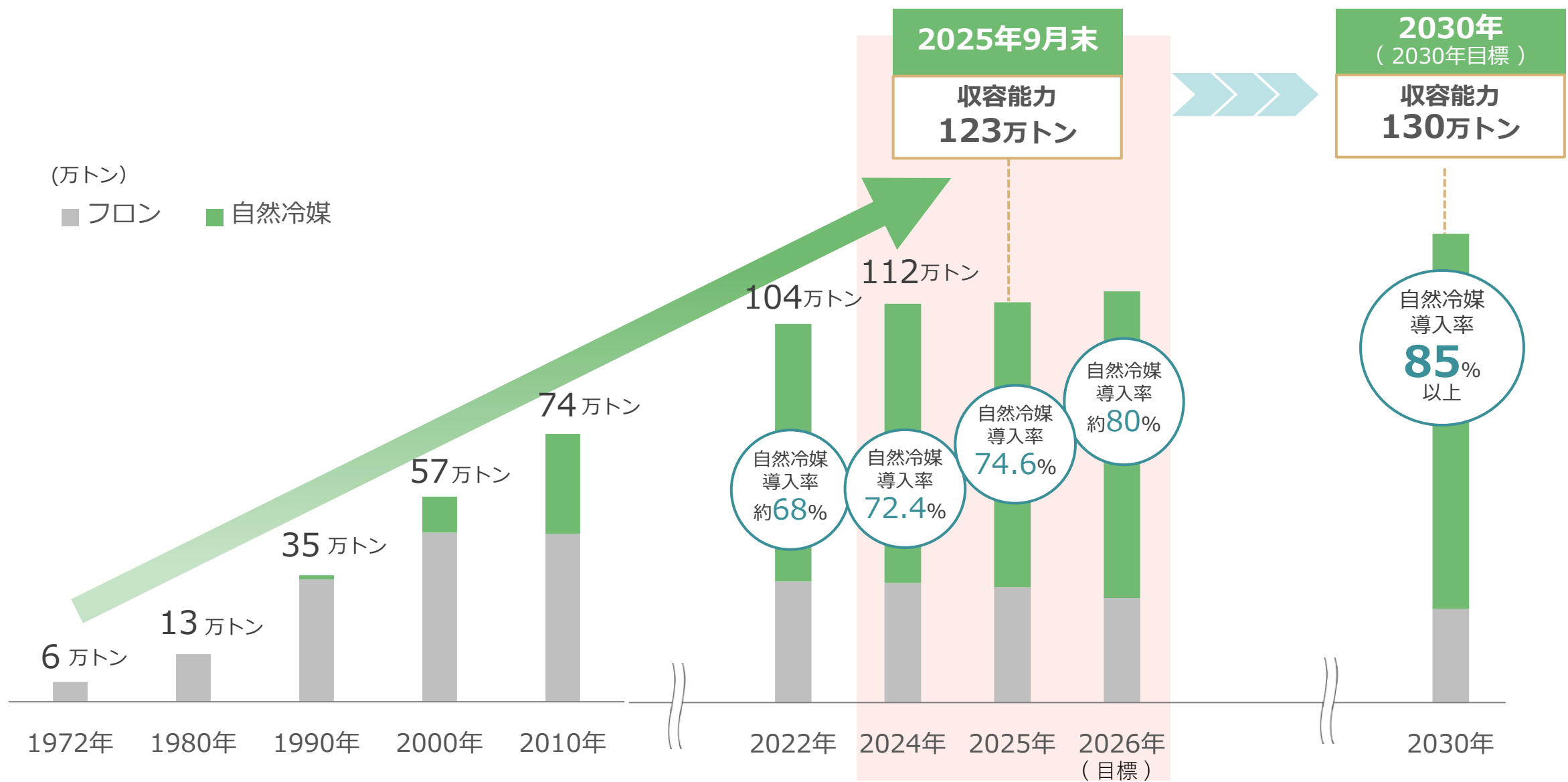
収容能力1000トンあたり
の電気の使用量

業界平均 : 161 MWh
当社 : **140** MWh

日本冷蔵倉庫協会
冷蔵倉庫実態調査 2024年版 より

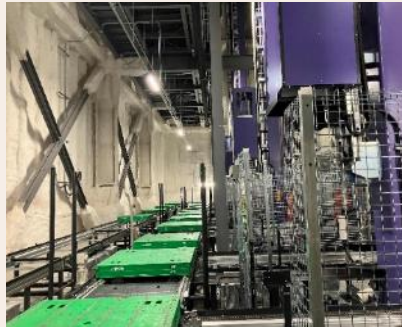
✓ 自然環境・地球にやさしい物流を実現 ✓ 電気料金高騰の影響が業界平均よりも少ない
温室効果ガスのサプライチェーン排出量を意識する顧客に選ばれる冷蔵倉庫へ

環境配慮NO.1 自然冷媒の割合と冷蔵収容能力



省人化 & 自動化

省人化・自動化システムの導入



- ベトナムベンルック物流センター、十勝フードバレー物流センターに全自動倉庫システムを導入
- 大幅な省人化を実現



- 作業用ロボットを使用したデバンパライズシステム（DPS）を導入
 - 荷下ろし後の貨物のパレットへの積み上げ、フィルム梱包までの一連の作業を完全に自動化

ダイバー シティ

ダイバーシティへの取り組み



- 女性・外国籍の活躍
- キャリア継続を支援
- 働きやすい職場づくりの推進



働き方 改革

スマートオフィス



- 事務作業が遠隔でできるスマートオフィスを開設
- 通勤時間の短縮、および複数事業所の業務を一括集約処理することで少人数での効率的な事務処理が可能に



地域貢献

スポンサー活動による地域貢献



©YDB



- 地域スポーツクラブの支援
- 日本将棋連盟「研修会」運営の支援
- えのすいecoサポーターとして
新江ノ島水族館の エコ活動に協賛



地域貢献

利益の一部を寄付として社会に還元

1973年から毎年寄付を継続的に実施
【2024年度】寄付件数: 20件



- 横浜市教育委員会への協賛
- 神奈川フィルハーモニー管弦楽団への寄付
- 日本将棋連盟への支援

「よこはま子ども国際平和プログラム
スピーチコンテスト」に協賛



社会貢献活動

全国食支援活動協力会へ保管場所を提供



東京羽田物流センターで、全国食支援活動協力会
ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS)
の中核ロジ拠点として保管場所の提供を開始



- MOWLSとは、全国のこども食堂等の「居場所」に集う子どもから高齢者等すべての人が食事を得られる環境をサポートするシステム
- MOWLSは支援者からの寄贈が効率的に運搬・仕分け・分配されることで支援者の負担を軽減し、活動者への支援が充実することを目指す

中核ロジ拠点



県域もしくは複数県
域分の寄贈食品の保
管機能をもった倉庫

APPENDIX

SOURCE BOOK

1. 2025年9月期 決算実績
2. セグメント別 決算実績
3. 2026年9月期 通期業績予想
4. 中期経営計画の進捗状況
5. 持続可能な社会へ
ーサステナビリティへの取り組みー
6. APPENDIX



ヨコレイ本社 (横浜コネクトスクエア10F)

会社名	横浜冷凍株式会社		
本社所在地	横浜市西区みなとみらい三丁目3番3号 横浜コネクトスクエア10F		
設立	1948年5月13日		
代表者	代表取締役社長 古瀬健児		
資本金	14,303百万円		
事業拠点	冷蔵倉庫事業	国内56	海外6
	通関事業	国内6	
	食品販売事業	国内21	
従業員数	連結 1,804名	単体 1,446名	
上場証券取引所	東証プライム（証券コード 2874）		

※2025年9月30日現在

「地球にやさしい物流センター/BCP対応型センター」の拡大を通じて、お客様のサプライチェーンのグリーン化/持続可能化を支援

■ 中期経営計画 数値目標の進捗状況

		実績 2024年9月	実績 2025年9月	目標 2026年9月	<div>2030年 (海外拠点含む)</div>
拠点・物流センター数(海外含む)		58事業所	62事業所	60 事業所	
太陽光発電 導入	導入事業所	28事業所	34事業所	32 事業所	
	発電能力	11メガワット	13メガワット	13 メガワット	
	CO2削減量（海外 除く） (2015年比)	年 3,809トン 34%削減	年 4,288トン 35%削減	年 4,260 トン 37%削減	
自然冷媒化	導入率(冷凍機入替 含む)	72.4%	74.6%	80%	85%

新設センター
再生可能エネルギー
利用率



目標
15%以上

2025年竣工
物流センター

岡山CONNECT
物流センター
22%
(最大値)

十勝フードバレー
物流センター
12%
(最大値)

ベンルック
物流センター
41%
(最大値)

・ 業界比較 品目別入庫（セグメント外取引含まず）

（単位:千トン）

品目別入庫実績		2024年9月期	2025年9月期	前期比	
				増減	増減率
水産品	ヨコレイ （シェア）	198 （10.4%）	201 （10.7%）	3 （0.3pt）	1.5%
	日冷倉12都市	1,912	1,885	△27	△1.4%
畜産品	ヨコレイ （シェア）	498 （11.3%）	476 （10.9%）	△22 （△0.4pt）	△4.4%
	日冷倉12都市	4,390	4,354	△36	△0.8%
農産品	ヨコレイ （シェア）	231 （18.3%）	248 （19.8%）	17 （1.5pt）	7.4%
	日冷倉12都市	1,263	1,254	△9	△0.7%
冷凍食品他	ヨコレイ （シェア）	617 （12.4%）	651 （12.8%）	34 （0.4pt）	5.5%
	日冷倉12都市	4,967	5,076	109	2.2%
合計	ヨコレイ （シェア）	1,545 （12.3%）	1,576 （12.5%）	31 （0.2pt）	2.0%
	日冷倉12都市	12,533	12,570	37	0.3%

・ 業界比較 品目別月末在庫累計（セグメント外取引含まず）

（単位:千トン）

品目別在庫累計		2024年9月期	2025年9月期	前期比	
				増減	増減率
水産品	ヨコレイ (シェア)	995 (18.8%)	1,025 (19.4%)	30 (0.6pt)	3.0%
	日冷倉12都市	5,288	5,297	9	0.2%
畜産品	ヨコレイ (シェア)	1,305 (15.8%)	1,279 (15.1%)	△26 (△0.7pt)	△2.0%
	日冷倉12都市	8,246	8,462	216	2.6%
農産品	ヨコレイ (シェア)	1,060 (35.4%)	1,115 (36.5%)	55 (1.1pt)	5.2%
	日冷倉12都市	2,993	3,053	60	2.0%
冷凍食品他	ヨコレイ (シェア)	716 (12.6%)	774 (13.3%)	58 (0.7pt)	8.1%
	日冷倉12都市	5,690	5,803	113	2.0%
合計	ヨコレイ (シェア)	4,076 (18.3%)	4,193 (18.5%)	117 (0.2pt)	2.9%
	日冷倉12都市	22,218	22,616	398	1.8%

・ 主要品目別 売上数量・金額・単価（連結ベース）

（単位：数量＝トン・金額＝百万円・単価＝円）

主 要 品 目	2024年9月期			2025年9月期			前 期 比		
	数 量	金 額	単 価	数 量	金 額	単 価	数 量	金 額	単 価
ポ ー ク	17,378	9,682	557.2	16,297	9,455	580.2	△1,081	△227	+23.0
チ キ ン	12,682	5,218	411.5	10,435	4,582	439.2	△2,247	△635	+27.7
ビ ー フ	1,619	1,955	1,208.1	1,659	1,960	1,181.7	+40	+4	△26.4
鮭 鱒	8,617	8,959	1,039.8	9,667	10,222	1,057.4	+1,050	+1,262	+17.6
ホ タ テ	4,052	4,577	1,129.7	2,750	5,310	1931.1	△1,302	+733	+801.4
サ バ	37,943	9,024	237.9	43,620	10,498	240.7	+5,677	+1,473	+2.8
エ ビ	4,405	5,443	1,235.7	4,552	5,783	1,270.4	+147	+339	+34.7
イ カ	7,488	4,660	622.4	5,062	4,626	914.1	△2,426	△33	+291.6
ホ ッ ケ	6,753	3,154	467.1	7,084	3,322	469.0	+331	+167	+1.9
ウ ナ ギ	1,576	6,022	3,821.3	1,477	5,458	3,695.6	△99	△563	△125.7



人とおいしさのあいだに

おいしさは、ココロを満たす
おいしさは、カラダをつくる
すべての人を幸せにするみなもと

食により添い、食を豊かにする
かかせない存在として、
私たちはこれからもずっと
そのおいしさを守り続けていきます

冷蔵倉庫と食品販売
ふたつの事業で日本へ、世界へ
人のために食をつなぐ使命を果たします

生産地から食卓まで、
食にかかわる人たちの
ほほえみもつないでいく

人とおいしさのあいだに
ヨコレイ

本資料に記載されている内容は種々の前提に基づいたものであり、将来の数値等に関する記載については、不確実な要素を含んだものとご理解ください。

当社の事前の承諾なしに、本資料に掲載されている内容の複製、転載等を行うことを禁止します。



◀横浜冷凍(株)ホームページは
こちらをスキャン

お問い合わせ先

横浜冷凍株式会社 I R 部

E-mail: info@yokorei.co.jp

URL : <https://www.yokorei.co.jp/>